

Traditional Tales Stage 5 'Jack and the Beanstalk'

p.2

ジャックとおかあさんは牛を飼っていました。
ジャックは、牛の乳をつぼに入れて毎日市場へ持って行きました。

p.3

そんなある日、牛の乳がまったく出なくなってしまうしました。
おかあさんは、「牛を売らしましょう。それで少しは食べものが買えるわ」と言いました。

p.4

ジャックは牛を連れて市場へ出かけました。
途中でひとりのおじいさんに出会いました。

p.5

おじいさんは、「その牛をわしに売ってくれんか？かわりにこの豆を5つぶやろう」と言いました。ジャックは、「うん、いいよ」と言いました。

p.6

ところがジャックがうちに戻ると、おかあさんは豆を外へ放りだして大声で言いました。
「もう、ジャックったら!こんな豆がいったい何になるっていうの？」

p.7

その次の日のこと。お母さんが捨てた豆はぐんぐんのびて、太くてりっぱな豆の木になりました！ジャックはのぼってみることにしました。

p.8

いちばん上までのぼってみると、そこには巨人の奥さんがいました。奥さんはジャックを見ると、「まあ、おなかをすかせているのね。パンを焼いてあげましょう」と言いました。

p.9

するとそのとき——「くんくんくん…子どものにおいがするようだぞ」という声が聞こえました。奥さんは、「大変、巨人よ！早くかくれて！」と言いました。

p.10

巨人は金貨をどっさり持っていました。
そして1枚1枚数えはじめました。

p.11

巨人はそのうちに眠ってしまいました。

ジャックはかくれていた物入れの中から出てくると、金貨を3枚つかんでいそいでうちに帰りました。

p.12

次の日もジャックは豆の木にのぼりました。奥さんは、「おなかをすかせているのね。パイを焼いてあげましょう」と言いました。

p.13

するとそのとき——「くんくんくん…子どものにおいがするようだぞ」という声が聞こえました。奥さんは、「ほら巨人よ！早くかくれて！」と言いました。

p.14

巨人は金の卵を産むにわとりを飼っていました。

p.15

巨人はまた眠ってしまいました。

ジャックはかくれていた植木鉢から出てくると、にわとりをかかえていそいでうちに帰りました。

p.16

3日目もジャックは豆の木にのぼりました。奥さんは、「おなかをすかせているのね。ケーキを作ってあげましょう」と言いました。

p.17

するとそのとき——「くんくんくん…子どもにおいがするようだぞ」という声が聞こえました。奥さんは、「巨人よ！早くかくれて！」と言いました。

p.18

巨人は金のたてごとを持っていました。そしてポロンポロンと弾きはじめました。

p.19

そのうち巨人はまた眠ってしまいました。

ジャックはかくれていた箱の中から出てくると、金のたてごとをかかえました。

p.20

ところがその時です！巨人が目を覚ましてしまったのです！
「待て！」巨人が大声でどなります。

p.21

ジャックはいそいで豆の木をおりました。巨人があとから追いかけてきます！

p.22

でもそのとき豆の木の下には、ジャックのおかあさんがおのを持って立っていました。そしてみごとに豆の木を切り倒してくれたのです！

p.23

こうして豆の木はなくなりましたが、ジャックとおかあさんはお腹いっぱいごはんが食べられるようになりました。

Traditional Tales Stage 5 'The Moon in the Pond'

p.2

ある夜のことでした。うさぎときつねとくまが深い池のそばに座っていました。

p.3

「つりでもしょうか？」とうさぎが言いました。

「つりだって？」ときつねが言いました。

「こんなに暗いのに？」とくまが言いました。

「お月さまを見てごらんよ」とうさぎが言いました。

p.4

大きくてまんなるなお月さまが、まるで昼間のように明るく池を照らしていました。

p.5

「ほらね！」とうさぎが言いました。

「これならおひさまがのぼるまでつりができるだろう」

p.6

きつねとくまは「なるほど」と言って、つりの道具を取りにうちに戻りました。

うさぎはにやりと笑いましたが、口もとが見えないように手で隠しました。

p.7

うさぎは、きつねとくまにいたずらをしようと思っていたのです。

p.8

きつねとくまが池に戻ってきました。つりざお

や糸、それから大きな大きな網も持ってきました。

p.9

「さあ、はじめよう！」ときつねとくまが言いました。

p.10

「ちょっとまって！」とうさぎが叫びました。

「ほら見て！池の中にお月さまが見えるよ！きっと空から落っこちてきちゃったんだよ」

p.11

「池の底に沈んでるのかな？」ときつねがききました。

「おぼれちゃうかな？」とくまがたずねました。

「助けなくちゃ！」とうさぎが言いました。

p.12

そこでうさぎときつねとくまは、お月さまをつりあげようと、何度も何度も池につり糸を入れました。

p.13

それでもお月さまはまだ池の中で光ったままです。

p.14

「あの大きな大きな網を使わなくちゃだめだな」とついとうさぎが言いました。

p.15

「ぼくが上にいて、どこに網を入れたらいいか教えてあげるよ。君たちは池に入ることができるだ

けお月さまの近くに行ってくれ」とうさぎが言いました。

p.16

「どの辺まで行けばいいの？」ときつねとくまがききました。

「できるだけ深いところまでさ」とうさぎが答えました。

p.17

きつねとくまはジャブジャブと池の中に入って行きました。

そして、あっちの方こっちの方へと網を投げました。

p.18

そのうちにきつねとくまは頭から足の先までずぶぬれになってしまいました。それでもまだお月さまを助けることはできません。

p.19

「もうびしょぬれだよ！」きつねがさげびました。

「寒くてたまらないよ！」くまもさげびました。

するとうさぎが言いました。

「それはそれは……」

p.20

うさぎは空に向かって腕を突きあげました。

「お月さまはね、最初からずっとあそこにいたのさ。池の中になんかいなかったんだよ」

p.21

「ハクション！！」きつねとくまが大きなくしゃみをしました。

「お気の毒さま！」とウサギが大きな声で言いました。

p.22

でもうさぎは悪かったなんてちっとも思っていないませんでした。なにしろいたずらがこんなにうまく行ったのですから。

p.23

おひさまがのぼっても、うさぎはまだにやにやしていました。

きつねとくまはまだくしゃみをしながら、ぶんぶん怒っていました。

Traditional Tales Stage 5

'Oh, Jack!'

p.2

あるところにジャックという少年がいました。ジャックは一日中家の中でゴロゴロしていました。それでお母さんは、「まったくもう、ジャックったら！ さっさと仕事をしておいで」と言いました。

p.3

ジャックはパン屋さんで働くことになりました。

p.4

パン屋のブラウンさんは、お給料としてジャックに1ペニーくれました。でもジャックはそのお金をなくしてしまいました。

p.5

うちに帰るとおかあさんが言いました。「まったくもう、ジャックったら！ おまえにはほんとうにイライラさせられるよ。いいかい、今度お給料をもらったらかちんとポケットに入れておくんだよ」

p.6

次にジャックは牛乳屋さんで働くことになりました。

牛乳屋のグリーンさんは、お給料としてつぼに入った牛乳をくれました。

p.7

帰り道、ジャックはそのつぼをポケットに入れて歩きました。おかげで牛乳はすっかりこぼれてしまいました。

p.8

うちに帰るとおかあさんが言いました。「まったくもう、ジャックったら！ いいかい、今度もらったら頭の上のにのせてくるんだよ」

p.9

今度はジャックは市場で働くことになりました。

屋台のご主人のホワイトさんは、お給料としてチーズをくれました。

p.10

帰り道、ジャックはそのチーズを頭のにのせて歩きました。でもおひさまの熱でチーズがとけてしまいました。

p.11

うちに帰るとおかあさんが言いました。「まったくもう、ジャックったら！ なんてこった。いいかい、今度もらったら手にしっかり持つんだよ」

p.12

ジャックは動物病院のブラック先生のところで働くことになりました。

ブラック先生はお給料として、ジャックにネコをくれました。

p.13

帰り道、ジャックはネコをしっかり手に持って歩きました。するとネコが怒りだしました。

p.14

「まったくもう、ジャックったら！いいかい、今度もらったらきちんとひもでつないでおくんだよ」

p.15

ジャックはケーキ屋さんで働くことになりました。

ケーキ屋のご主人のグレイさんは、お給料としてケーキをくれました。

p.16

帰り道、ジャックはケーキをひもでしっかりつないで歩きました。

p.17

「まったくもう、ジャックったら！もう少し頭を使ったらどうだい。いいかい、今度もらったら肩の上にのせるんだよ」

p.18

ジャックは農場で働くことになりました。

ご主人のゴールドさんは、お給料としてロバをくれました。

p.19

帰り道、ジャックはそのロバを肩にのせて歩きました。道行く人がそれを見て、クスクス笑いました。

p.20

ジャックは大きな家の前にさしかかりました。窓辺には女の子がいました。女の子はとてもお金持ちでしたが、とても悲し

そうでした。

p.21

でも、ジャックがロバを肩にのせて歩いているのを見ると、キャッキョッと笑いだしました。

p.22

ジャックのおかげで女の子は明るくなりました。

こうしてふたりは結婚することになり、いつまでも幸せに暮らしました。

p.23

「まったくもう、ジャックったら！」

Traditional Tales Stage 5 'The Magic Paintbrush'

p. 2

ホーは、お金持ちの農家で毎日毎日牛や馬の世話をしていました。干し草を畑に運ぶ仕事もしました。

p. 3

お金は少ししかもらえなかったので、食べるのはいつも干からびたパンばかりでした、

p. 4

ある日のこと、やせこけたおじいさんが道の向こうからやってきました。おじいさんはとてもお腹がすいているようでした。それを見たホーはおじいさんに自分のパンをあげました。

「これをどうぞ」

p. 5

おじいさんは「どうもありがとう」と言って、ホーに贈り物をくれました。それは金色の絵筆でした。

p. 6

ホーは、草、くだものの実、泥などを使って絵の具を作りました。

p. 7

「何を描こうかな？」ホーは頭をひねりました。

そしてまず干し草の絵を描いてみました。するとふしぎなことにその絵がほんものの干し草になったのです！

「これは魔法の絵筆だ！」

p. 8

太陽がじりじりと照りつけています。小川はカラカラに干からびていました。

そこでホーは青い絵の具で小川の絵を描きました。

p. 9

するとその絵がほんものの小川になりました！これでやっと、みんな水が飲めるようになりました。

p. 10

お金持ちの農家には食べものがたくさんありましたが、そこで働いている人や子どもたちはいつもお腹をすかせていました。

p. 11

そこでホーは食べものの絵をたくさん描きました。するとやはりその絵はほんものの食べものになったのです！

p. 12

こうしてホーはみんなの役に立つものを書いては、ほんものを作っていました。荷車……、おけ……、着るもの……ホーはたくさん描きました。

p. 14

お金持ちの農家の主人は魔法の絵筆がほしくてたまりません。そこでホーをろうやに閉じこめて、絵筆を取りあげてしまいました

た。

p. 15

主人はとても欲張りでしたから、この絵筆で金の絵を描くことにしました。でもどうしてもほんものの金にはなりませんでした。

p. 16

そこで主人はホーに、「おい、おまえ！この筆はわしではうまくいかん。おまえが描け。金の山だぞ！」と命令しました。

p. 17

ホーは金の山の絵を描きました。そしてそのまわりには青い海を描きました。するとほんものの金と海があらわれました。

p. 18

主人はカンカンです。「わしは泳げないんだぞ！なぜ海なんか描いたんだ！」

p. 19

「それでは船の絵を描きます」ホーがそう言って絵を描くと、ほんものの船があらわれました。

p. 20

主人は船に乗って、金の山へと向かいました。「わしに戻ったら、わしの欲しいものをどんどん描いてもらうからな。そうすれば世界はわしのものじゃ！」そう言って、主人は笑いました。

p. 22

そこでホーは嵐の絵を描きました。すると嵐はほんものになって、主人の乗った船を遠くへ押し流してしまいました。

p. 23

ホーは農家に戻りました。そしてそれからは心の優しい人々の役に立つものだけを描き続けました。

お金持ちの主人は2度とあらわれることはありませんでした。